

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	富田 幸江
通学キャンパス			
論文題目	新卒看護師にかかわる実地指導者のアサーティブネスの影響要因		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 本研究は「新卒看護師にかかわる実地指導者のバーンアウトの予防のためのアサーティブネスの促進を意図し、アサーティブネスへの関連要因、影響要因を明らかにする」ことを目的に、300 床以上の全国の市立病院及び関東圏内の大学病院に勤務する新卒看護師にかかわる実地指導者（1067 名）を対象に実施した質問紙調査である。調査はベースライン調査（回収数：836 名）と 8 ヶ月後の追跡調査（回収数：472 人）の 2 回実施した。ベースラインデータを横断的に分析するとともに、追跡調査を縦断的に分析した。主な結果として①アサーティブネスな自己表現を促進するために、実地指導者は自己を肯定的にとらえ、バーンアウトを予防することが重要であること、②新卒看護師の技術の未熟さをあるがままにとらえ、新卒看護師が成長できるアサーティブな支援の必要性、③職場環境を整えることで、実地指導者の新卒看護師へのアサーティブなかかわりが期待できることの 3 点を明らかにした。</p> <p>2) 研究の実施に当たっては倫理委員会の承認を得て行っており、倫理的な問題はなかった。本研究は、前向き研究方法をとっており、アサーティブネスの変化への影響要因を検討するには妥当な方法といえる。ベースラインデータは 37 病院から 1067 名（回収率 82.2%）が回答していることも評価できた。</p> <p>3) 知見の新規性と価値：新卒看護師にかかわる実地指導者のアサーティブネスを系統的に、関連要因や影響要因を明らかにした先行研究はなく、本研究で明らかにしたことは看護師の現認教育方法や環境を改善するにあたって新たに視点を提供するものであり、評価できる。</p> <p>2. 審査会は 2 回開催した。初回審査（平成 27 年 12 月 8 日）では、文献検討の妥当性、研究目的の一貫性の確保、調査対象施設選定の根拠、論文の構成、分析方法、表の記載方法、得られた結果に対する考察の充実、研究の限界に関する記載内容について質問し、一定の回答は得たが、修正論文の提出を求めた。修正論文をもとに 2 回目の審査会（平成 28 年 1 月 7 日）が行われ、修正箇所を中心に審査を行い、適切に修正されていることを認めた。</p> <p>3. 口頭試問においては、アサーティブネスとバーンアウトの関係性、アサーティブネスに関する先行研究、看護におけるアサーティブネスの意義について質問があり、適切に応答した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	荒木田 美香子	
	副 査	竹内 孝仁	
	副 査	池田 俊也	